

保健室だより

平成28年度第5号 千葉県立千葉南高校保健室

『本日は、お日柄もよく』

3年生は特に注目！この夏の参院選から投票日の翌日までに18歳の誕生日を迎えるキミには選挙権がもらえる。さて投票を翌月に控えて、キミは選挙についてどんなことを思ってるかな？「政治なんて関心ない」「どうせ誰が議員になったって社会は変わらない」「誰に投票したらいいかわからない」…。いろんな意見があるかもしれないね。

各党からマニフェストという「こういう目的のためにこんなことをします」という方針が出てくるから、それを読んで比較してみるのもいいよね。難しい言葉もたくさんで、私にもよくわからないことが多いんだけど…。

でもその前に、キミはどんな社会で暮らしたいと思う？就職しやすくなること？年をとっても安心して必要な支援が受けられること？景気がよくなること？保育園に入れなくて困る人がいなくなること？キミにとって身近な問題も、選挙の行方次第で方向性が決まってくるんだよ。若い人たちの投票率はすご〜く影響を及ぼすんだ。

話は少し変わって…この前読んだ本で政治が少し身近に感じられたんだ。選挙という制度でリーダーを決められるようになったのって、日本の歴史からみたらごく最近のことなんだよね。しかも最初は女性には選挙権はなかった。だから私はこれまで一度も棄権したことがないよ。投票日に行けない時は期日前投票に行く。せっかく苦勞して先輩方が手に入れてくれた権利を行使しないのはダメだって自分に言い聞かせている。

そうそう、本のご紹介をしようね。今回のテーマにも書いた『本日は、お日柄もよく』原田マハ著。この本にはスピーチライターという職業の人が出てくる。一人のOLが、幼馴染の披露宴で聞いた、心に訴えかける凄いスピーチをしたある人との出会いで「言葉のもつ力」に感銘を受け、スピーチライターの修業をするようになる。そしてその幼馴染が大企業を退職して県議に立候補することになり、そのスピーチを彼女がお手伝いすることになるんだ。政治の世界なんて全く知らなかった彼女は、立候補者の想いをどんな言葉で表現すれば、聴衆の心に届くか…。選挙のお手伝いをするうちに、もしかして自分たちも社会を変えられるかもという気持ちが膨らんでいく。みんなも街頭演説があったら聞いてみるのもいいと思うよ。耳に心地よいことだけ並べて政策は薄っぺらなのか、本当に庶民の立場にたって住みやすい国をつくらうとしているのか、よ〜く聞いてみてよ。

この前オバマさんが広島に来てくれたね。あの時、予定よりもすご〜く長いスピーチをした。彼の言葉を聞いてるうちに、自然と涙があふれた。原爆を落としたのはオバマさんのせいじゃない。けど、過去の悲惨な歴史に真摯に向き合うことから逃げなかった…それが多くの人々の心に響いたのではないかな？日本だっていろんなことをしてきた。今も爆弾や銃撃の中で怯えながら暮らしている人々が住む国もある。

過去をふりかえれば、人間の歴史は争いとともにあつた。「立場」が人を殺めることを正義と思わせてしまう。だけど一人の人間として相手と向き合い、話し合うことで相手が心を持った人に変化していくという事実も知ってほしい。(これも『空飛ぶ広報室』有川浩著 を読んで実感したこと)

歴史を学ぶことが大切なのは、きっと過去の過ちを繰り返さないために、今どう考えどう行動するかを判断する材料になるからなのかもね。そしてみんなは今、歴史を作りながら生きている。リアルタイムで起こっていることが、将来歴史の教科書にのるんだ。平成の時代に若い人たちは聡明な判断をしたよねって、未来の人に賞賛されるように今を生きてほしいなあ。おばさんからのお願いです。